新建新聞10月15日付

信州職人学校・伝統大工応用コース

滝社「拝殿改修」が終了

貴重な体験を今後に生かす

長野県建設労連（松本市）が信州職人学校・伝統大工応用コースの総合実習として取り組んできた、塩尻市宗賀の牧野滝社「拝殿改修」工事で、10月６日に最後の作業が行われ終了した。

伝統構法の継承と大工棟梁の育成を目指す同応用コースには、今回20代から40代の８人が参加した。

最終日に収納部の組み上げに取り組む受講者

総合実習は、滝社神殿改修普請事業に企画段階から携わる三浦創建の社長で、同講座講師の三浦保男氏の指導のもと、７月から作業を開始。木材加工・搬入、現地での墨付け・刻み、不陸直し、小屋改修、新たに反りをもたせ彫刻も施した破風の原寸図作成から製作・取付を毎週末に実習。最終日は腐食が激しい収納部の新設入替で終了した。

作業終了後に三浦講師は、拝殿内で実習内容を写真などで確認しながら説明「一般の工事では体験できない作業。貴重な経験として生かしてほしい」とまとめた。受講者は11月に県知事認定の「技能評価試験」に臨み信州伝統大工１級を目指す。

現場で信州伝統大工の法被を着て記念写真。受講者と講師ら関係者